

抗炎症血行促進剤

ヒルドイド[®]ゲル 0.3%

Hirudoid[®] Gel

ヘパリン類似物質 ゲル

貯 法：室温保存
使用期限：包装箱、チューブに表示。

**承認番号	22000AMX02388000
**薬価収載	2008年12月
販売開始	1988年10月

【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

- (1)出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)のある患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2)僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕

【組成・性状】

成分・含量 (1g中)	ヘパリン類似物質……………3.0mg
添 加 物	イソプロパノール、プロピレングリコール、トリイソプロパノールアミン、カルボキシビニルポリマー、香料
性 状	微黄色澄明のゲルで、特異なおいがある

【効能・効果】

血栓性静脈炎、血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患(注射後の硬結並びに疼痛)、肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防、進行性指掌角皮症、外傷(打撲、捻挫、挫傷)後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸(乳児期)、凍瘡

【用法・用量】

通常、症状により適量を、1日1～数回塗擦又はガーゼ等にのばして貼付する。

【使用上の注意】

1. 副作用

総投与症例159例中、1例(0.63%)に副作用が認められ、その症状は皮膚の刺激感であった。(承認時)
なお、本剤と生物学的同等性を有する製剤の副作用も含めて記載した。

その他の副作用

	0.1～5%未満
過 敏 症 [※]	皮膚刺激感、そう痒、発赤、発疹等

注)症状があらわれた場合には使用を中止すること。

* 2. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。

3. 適用上の注意

投与部位：潰瘍、びらん面への直接塗擦を避けること。
眼には使用しないこと。

【臨床成績】

国内総計119例を対象とした、二重盲検比較試験¹⁾を含む臨床試験における有効率は、次のとおりであった。

対象疾患名	有効率(%) [有効以上]
スポーツ外傷	74.8 [89/119]

【薬効薬理】

1. 抗炎症作用²⁾³⁾

紫外線紅斑抑制作用を有し、また、コットンベレット法による肉芽形成に対して抑制作用を有する。(モルモット、ラット)

2. 鎮痛作用³⁾

ランダル・セリット法による炎症性疼痛に対して鎮痛作用を有する。(ラット)

3. 血流量増加作用⁴⁾

水素クリアランス法による実験で、皮膚組織血流量の増加を認めた。(ウサギ)

4. 紫斑消退促進作用⁵⁾⁵⁾

人工的局所紫斑の消退を促進する。(ヒト、ウサギ)

5. 血液凝固抑制作用^{6)~8)}

血液凝固時間を延長し、血液凝固抑制作用を示す。(ヒト、イヌ、ウサギ)

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ヘパリン類似物質(Heparinoid)

性 状：帯黄白色の無晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

水に溶けやすく、メタノール、エタノール(95)、アセトン又は1-ブタノールにほとんど溶けない。

水溶液(1→20)のpHは5.3～7.6である。

【包 装】

チューブ：25g×10、25g×50、50g×10、50g×50

【主要文献】

- 1) 高沢晴夫ら：基礎と臨床, 15(4), 1996(1981)
- 2) Raake, W.: *Arzneim.-Forsch. (Drug Res.)*, 34(4), 449(1984)
- 3) 前田誠二ら：薬効薬理に関する社内資料(抗炎症作用、鎮痛作用及び紫斑消退促進作用)
- 4) 前田誠二ら：薬効薬理に関する社内資料(血流量増加作用)
- 5) 須貝哲郎：皮膚, 27(5), 982(1985)
- 6) 石川浩一ら：外科, 17(12), 849(1955)
- 7) 中安国裕：東京慈恵会医科大学雑誌, 76(2), 494(1961)
- 8) Giarola, P. A. et al.: *Arzneim.-Forsch. (Drug Res.)*, 20(2), 234(1970)

**【文献請求先・製品情報に関するお問い合わせ先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

マルホ株式会社 製品情報センター
〒531-0071 大阪市北区中津1-11-1
TEL: 0120-12-2834

®登録商標